

東京2020大会における交通・輸送の特性及び課題

＜大会関係者輸送に関する特性と課題＞ 資料 3-2～3-5

【特性】

- ・過去大会において設置された「オリンピックパーク」や「メディア村」が存在せず、選手村や競技会場、メディアセンター等が既成市街地や、物流拠点である臨海部に点在
- ・環状道路等の道路ネットワーク整備が進捗している一方で、オリンピック開催期間は夏季の行楽シーズンであり、一年の中でも交通量や事故等が多く混雑しやすい傾向

【課題】

- ・日常の都市活動への影響を最小限としつつ、大会輸送を安全・円滑に行うため、それらの両立を図ることが不可欠
- ・大会の成功に向け、輸送オペレーションの検討が必要

＜観客輸送に関する特性と課題＞ 資料 3-6

【特性】

- ・多くの競技会場が公共交通機関の徒歩圏内に配置
- ・観客輸送については基本的に公共交通機関の利用による来場を想定
- ・平日は朝夕通勤時間帯に需要が集中し各路線が混雑
- ・夏季行楽シーズンは臨海副都心エリアの需要が増加し各路線が混雑

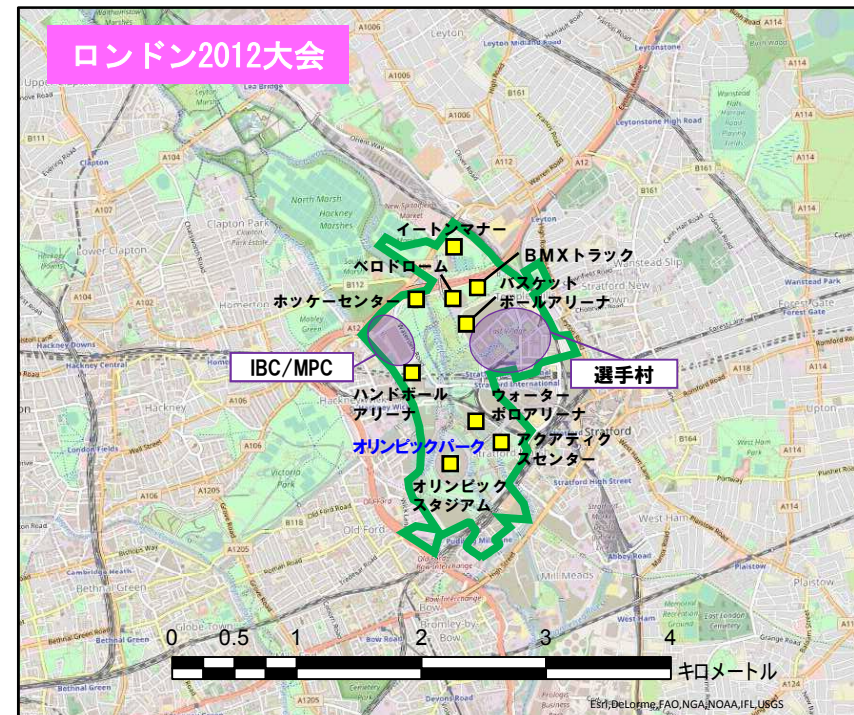
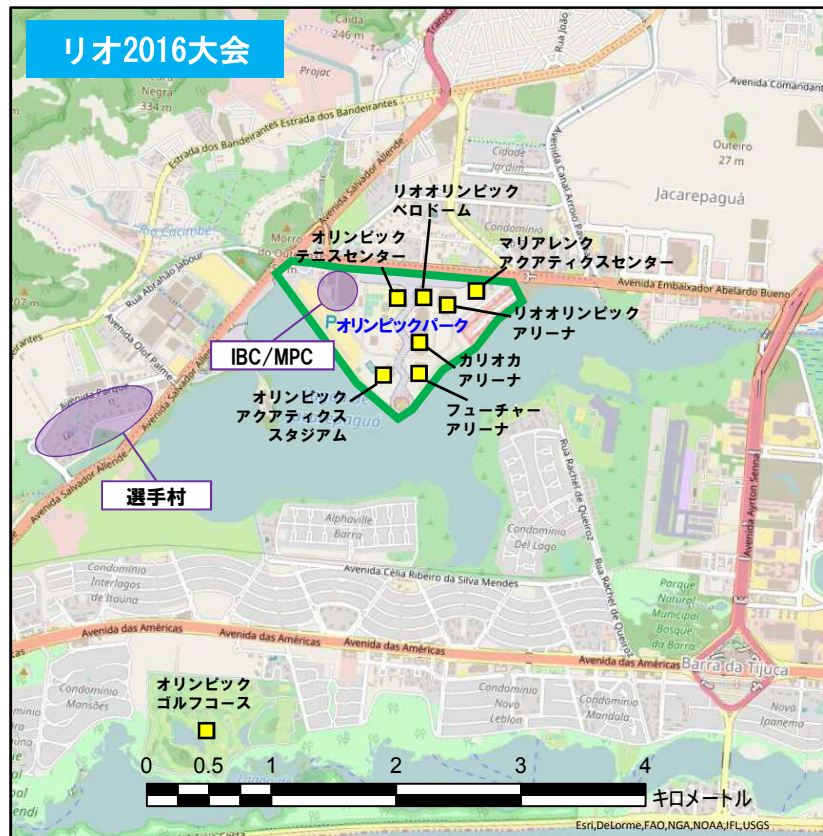
【課題】

- ・朝夕通勤時間帯や競技会場が集中する臨海副都心エリアでは、局所的に需要が集中して混雑するおそれが懸念
- ・需要の集中を回避し、観客輸送と一般輸送を両立させることが必要

オリンピック・パーク事例（リオ2016大会⇔ロンドン2012大会）

資料 3-2

リオ2016大会、ロンドン2012大会ともに競技会場がコンパクトに配置された「オリンピックパーク」が存在



東京2020大会

東京2020大会では、オリンピックパークが設置されない

競技会場配置比較図（東京2020大会⇄リオ2016大会）

資料 3-3

東京2020大会

既成市街地や、物流拠点である臨海部に多くの競技会場が点在

リオ2016大会

選手村から30km圏内に競技会場がコンパクトに配置

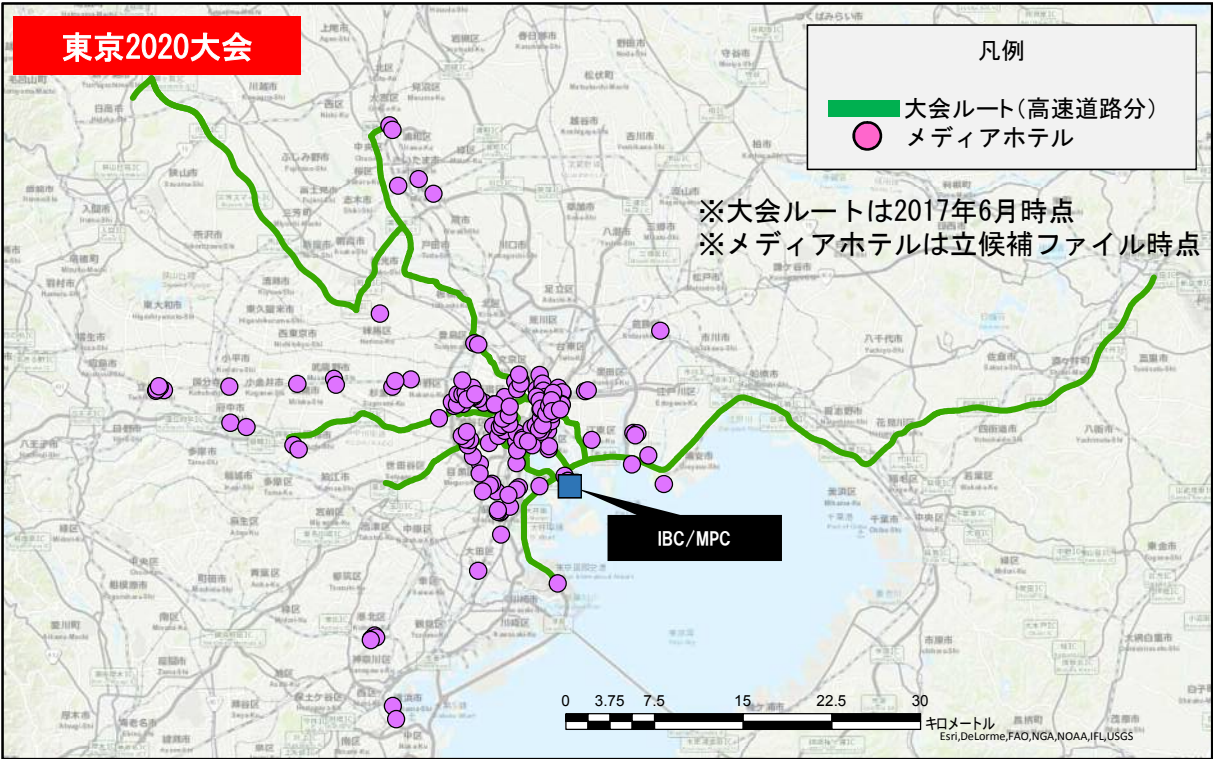


メディアホテル配置比較図（東京2020大会⇄リオ2016大会）

東京2020大会

既存ホテルの利用により、メディア関係者の
宿泊施設を確保

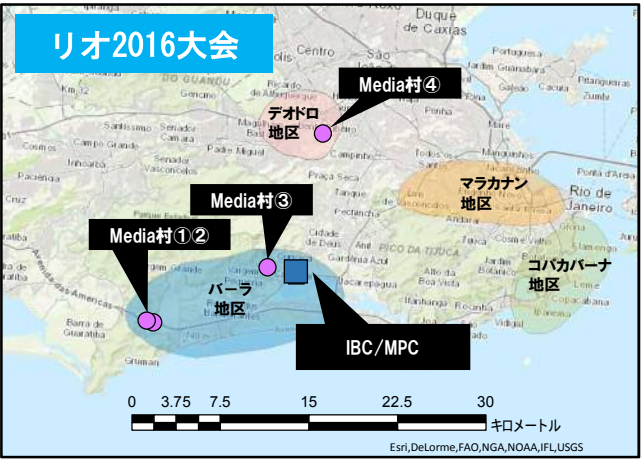
過去大会において設置された「メディア村」
が設置されず、宿泊場所が点在するため、
輸送ルート数が増加



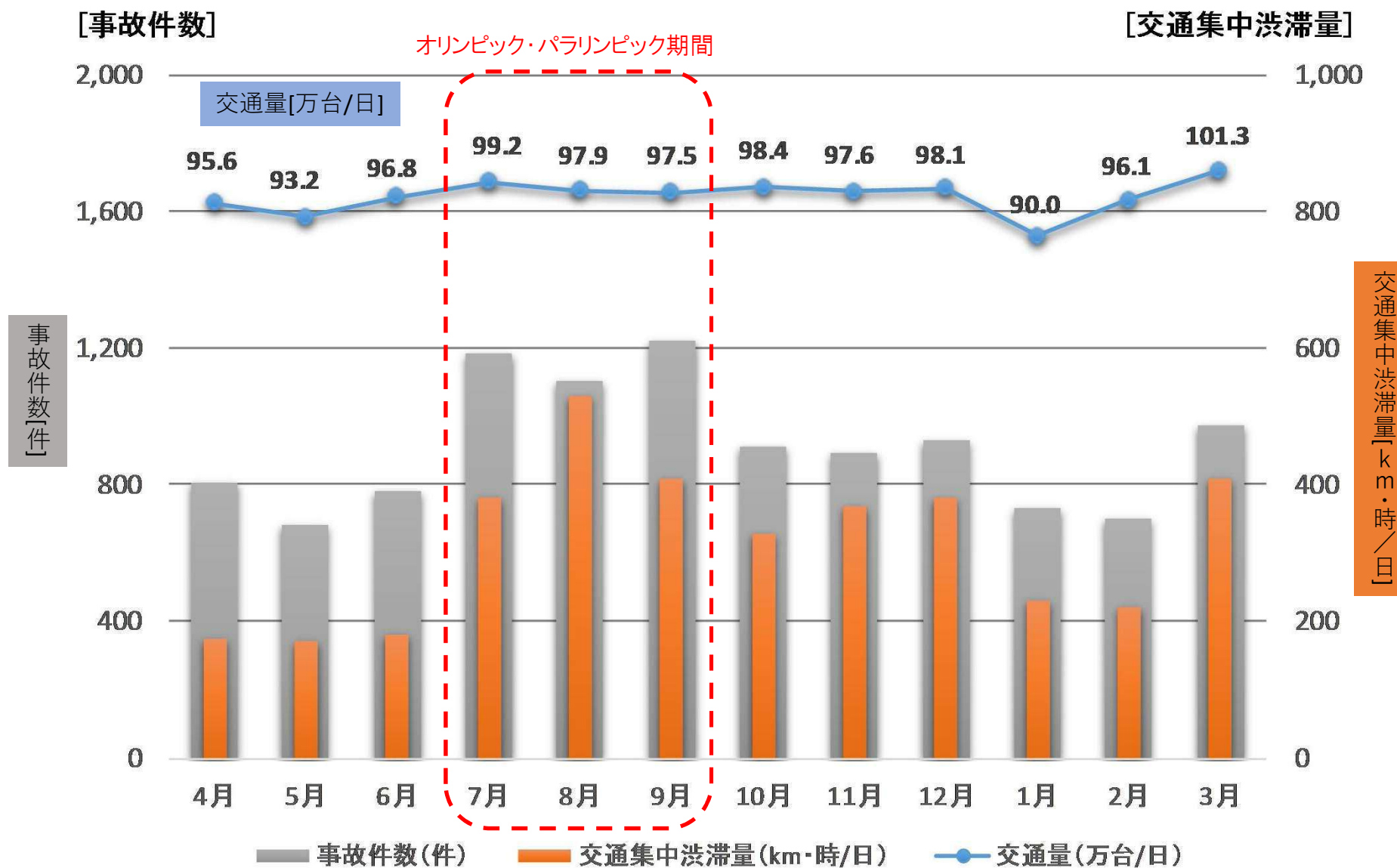
リオ2016大会

メディア関係者の宿泊施設としてメディア村を4箇所に設置

メディア村設置により、宿泊施設が集約されたことで、輸送ルート数が抑制



首都高の月別交通状況(平成27年度)



※データ提供:首都高速道路(株)

